

第 59 回米国血液学会年次総会に参加させて頂いて

東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科 細羽梨花

この度 JALSG にサポート頂き、第 59 回米国血液学会年次総会 (ASH) に参加させて頂きました。開催地のアトランタは数年ぶりの大雪で、予想外にとっても寒かったのですが、綺麗な雪景色を見ることが出来ました。学会は 4 日間の日程で行われましたが、どの日・どの時間帯も興味深い演題ばかりで、聞きたい演題を学会場までのシャトルバスで確認しながら毎日移動していました。学会場は想像よりとても広く、初日の午前中は迷子状態でした。

演者の先生方は、御高名な先生は勿論ですが、私より若い先生も演者として ASH の舞台上で堂々と発表されており、驚嘆すると共に刺激をもらいました。演題は、大規模臨床試験でこれから論文として世界に出ていくであろうデータや、基礎研究の最新の知識など目新しいものばかりで、スケールの大きさに感銘を受けました。血液学の世界は深く広く、そしてめざましく進歩しているということ、学会場という生の現場で、改めて肌で感じる事が出来たのは貴重な経験でした。私は白血病の演題を中心に聞きましたが、AML の新薬の報告や CAR-T 細胞療法の発展が注目度も高く、盛況でした。

現地で開催された、Young Investigator Travel Award に選出された全国の先生方と JALSG メンバーの先生方との昼食会も、とても有意義な時間でした。選出された先生方は皆さん同年代血液内科医師ですが、目指す道は十人十色で、お話を聞いて興味深いと同時にとても刺激を受けました。

今回 ASH に参加させて頂いたことは、世界で見る血液学の面白さを肌で感じ、その中で一緒に成長していきたいという医師としての思いを改めて認識する絶好の機会となりました。普段働いているとついおざなりにしがちですが、この気持ちを忘れず、成長の糧にしていきたいです。

最後に、このような機会を与えて下さった JALSG の方々、そして学会出席の時間を与えて下さった慈恵医大の先生方に深く感謝申し上げます。本当に有難うございました。